

コロナ対策のはずが社員イジメの労務管理に！ **コロナの影響で大幅に減便された東海道新幹線** **の清掃会社で異常な労務管理が！**

新型コロナウイルスの蔓延・拡大に伴い東海道新幹線が大幅に減便され、新幹線の運行に関連する作業員にも自宅待機などの感染拡大防止策がとられている中で、車両の清掃作業を請け負っている「関西新幹線サービック（サービック）」で異常な労務管理が行われている。

誰が考え出したのか宿題？小学生なみの労務管理！

サービックには四つの事業所があるが、異常な労務管理が行われているのは「新大阪第一事業所（竹腰所長以下約250名）」だ。

サービックでは新幹線の減便に合わせて、その分の社員に4月下旬以降「自宅待機」を命じているが、新大阪第一事業所では四つの事業所で唯一小学生さながらの「課題＝宿題」の提出を求めている。しかも内容たるや『社員の心得』なる冊子の写経という、人を馬鹿にした内容である。

何の指導もなく、いきなり「自宅待機外し」！

新幹線の減便に伴う自宅待機は4月24日から始まり、全従業員が平均して週に1～2回の自宅待機だった。

ところが1ヶ月経った5月25日から突然、一部の社員を自宅待機させないようになった。「どういうことか？」と問いただした社員に対して、担当の係長は「竹腰所長から宿題を出していない者には自宅待機させるなど言われている」と困り顔。コロナ対策は一転「労務管理」に利用されている事態となった。

天下り二人の意志は、親会社JR東海の意志！

この「自宅待機外し」を考案し、従わない者には懲罰を課するというやり方は、竹腰所長と山崎科長の恣意的な思惑（特定の労組組合員への差別）でやられている。

そして、この二人はJR東海からの天下りで現職に就いているのであり、これは「JR東海の意志」だというのが職場で語られているもっぱらの噂である。